

身を守る ヒツジグサ

陶史の森の「蝶の館」の横にある小さな池で“ヒツジグサ(末草)”が咲き誇っています。ヒツジグサは日本に自生する世界最小のスイレンの仲間、花期が長く6月頃から9月頃まで私たちの目を楽しませてくれます。名前の由来は「末の刻」(午後2時頃)に花が開くからだそうですが、天気の良い日は朝から夕方まで咲いています。

去る5月28日の夕方、雷鳴とともに黒い雲が陶史の森を覆いました。しばらくして強い風が一瞬吹いたかと思うと、2~3センチもの大粒の雹(ひょう)が降り出しました。雹は屋根やガラス戸、木々を激しく打ち付け、嵐の後は、打ち落とされた葉っぱが緑のじゅうたんのよう地面を覆っていました。

さてヒツジグサはというと、周りの葉は雹でポロポロになりましたが、花は傷むことなく嵐をやり過ごしました。彼らは光の強さを感じ取ることができると、黒い雲を感じて花を閉じたのです。

周囲に気を配り、早めに被害を食い止める。この姿勢は、私たちが取り組むべき災害への備えと同じといえます。



森	の
日	記

陶史の森写生会

5月3日(木)・4日(金)

満開のサトザクラの下“陶史の森写生会”を行いました。年少さんから小学6年生までのちびっ子画家たちが、ウサギやクジャク、サトザクラなどを、心を込めて描いていました。作品はネイチャーセンターに展示され、駄知小学校2年のフェローチェリーさんをはじめ11人を表彰しました。

ネイチャー・オリエンテーリング

5月25日(金)

駄知小学校の皆さんが、1~6年の縦割り集団で『ネイチャー・オリエンテーリング』を楽しみました。「葉っぱ笛を吹きましょう」など、チェックポイントごとの課題を6年生がリーダーとなって解きながら、森の中を散策しました。

バードウォッチング

5月27日(日)

毎月第4日曜日に開催している「バードウォッチング」に、名古屋市や関市からも家族連れなど17人の参加がありました。野鳥の会の方から解説を受けながら森内を散策していると、運良く「オオルリ」を観察することができました。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴をご遠慮ください。

教室のご案内

7月

- 草花標本づくり教室(自由参加)
7月8日(日)9:00~11:30
植物の採集・観察と標本作り
- 夏の天体教室(要申込・定員20人)
7月14日(土)18:30~21:00
夏の星座の観察(雨天中止)
- バードウォッチング(自由参加)
7月29日(日)9:00~11:30
夏の野鳥を観察(雨天中止)

8月

- 昆虫教室(要申込・定員20人)
8月5日(日)9:00~11:30
昆虫の採集・観察と標本作り
- 川の生き物教室(要申込・定員20人)
8月12日(日)9:00~11:30
川の生き物の観察と飼育のアドバイス
- バードウォッチング(自由参加)
8月26日(日)9:00~11:30
夏の野鳥を観察(雨天中止)